



ベゴニア ～「わかった」「できた」「来てよかった」 の思いがあふれる補習校



失敗から学び、負けない自分をめざそう ー前期前半の最終日・全校朝会よりー



〇月〇日(〇)は前期前半の最終授業日でした。
全校朝会では、校長講話として「失敗するとき、負けるとき
の共通点～歴史の失敗から学ぼう～」と題したお話をしました。

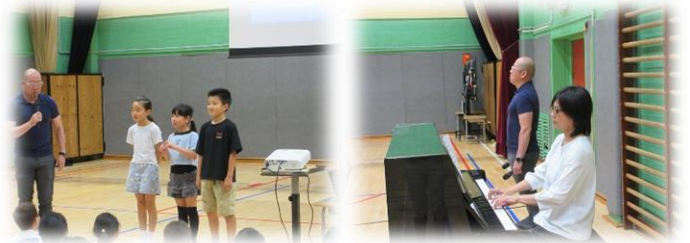
「勝ちには運もあるが、負けには必ず理由がある」という言葉から話を始めました。戦国時代の武将たちの失敗を例に、子どもたちと一緒に考えていくと、失敗や敗北には共通した三つの原因があることが見えてきます。①情報不

足、②思い込み、③慢心・油断です。

桶狭間の戦いで織田信長に敗れた今川義元は、相手の居場所も天気の変化も把握できていませんでした。長篠の戦いで敗れた武田勝頼は、「自分たちは負けない」という思い込みを捨てられませんでした。そして天下統一目前で本能寺の変に倒れた織田信長は、自分の守りを怠り、油断していました。歴史に名を残す名将たちでさえ、こうした落とし穴にはまってしまうのです。

では、私たちはどうすればよいのか。「しっかりと調べる」「思い込みを捨て、本当にこれでよいかを問い直す」「最後まで気を引き締める」。この三つを意識することが、負けない自分をつくることにつながります。歴史の失敗は、今を生きる私たちへの大切なメッセージでもあります。

また、この日は7月で日本へ帰国するお友だちとのお別れの時間も設けました。ともに過ごした日々への感謝と、新しい場所でのがんばりを願いながら、温かい雰囲気の中でお別れのあいさつをすることができました。最後はみんなで元気よく校歌を歌い、前期前半を締めくくりました。帰国するお友だちの新しい出発を、全員で心から応援しています。



【今後の予定】



HP 上は非公開

みんなの願いよ 空にとどけ ー七夕かざりー



7月7日の七夕にちなんで、今年も全校で七夕かざりに取り組みました。色とりどりの短冊には、将来の夢や家族への思い、世界の平和を願う言葉など、一人一人の素直な気持ちがつづられていました。

「サッカー選手になりたい」「家族みんなが元気でいられますように」「世界から戦争がなくなりますように」…。子どもたちの願い事を一つ一つ読んでみると、それぞれの豊かな心が伝わってきて、思わず温かい気持ちになります。中には「お金持ちになれるように」という願い事を書いている人もいました。

自分のことだけでなく、家族や世界のことを思いやる言葉が多く見られるのは、海外で様々な文化や価値観に触れながら学ぶ補習校の子どもたちならではの姿かもしれません。

七夕の夜、天の川のかなたに、みんなの願いが届いていたらいいと思います。